

おクルマを安全にお使いいただくために ➤



お問い合わせ、ご相談は下記へお願いいたします。

トヨタ自動車株式会社 お客様相談センター

 **0800-700-7700**

受付：年中無休 9:00～17:00
(除く年末年始)

レクサスインフォメーションデスク

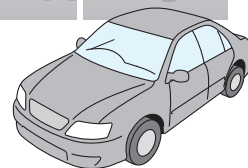
 **0800-500-5577**

受付：年中無休 9:00～17:00
(除く年末年始)

所在地 〒450-8711
名古屋市中村区名駅4丁目7番1号

「個人情報保護方針」については、
<http://www.toyota.co.jp>にて掲載しております。

トヨタ自動車株式会社
www.toyota.co.jp



はじめに

本書は、お客様の大切なおクルマを、車両火災から守るための注意点を『取扱編』と『メンテナンス編』に分けてご説明しています。

取扱編

P2 ～ P11

不慮の火災事故を防ぐために、おクルマを取り扱われる際に、お守りいただきたい注意点です。

メンテナンス編

P12 ～ P22

車両のメンテナンスにあたって、お守りいただきたい注意点です。万一異常を発見されたときは、そのまま使用せず、すみやかに販売店へ連絡し、点検整備を受けてください。

万一の場合の対処

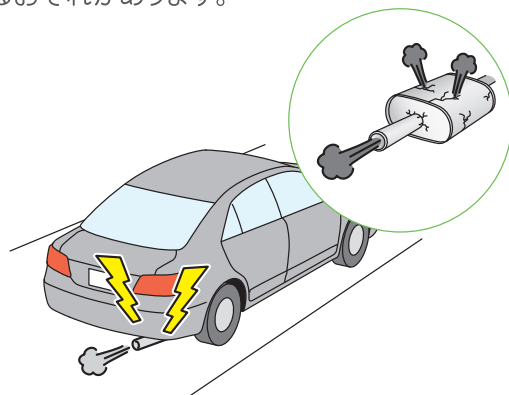
走行中、車両火災が起きた場合は、次の順序にしたがって、対処してください。

- 1 ハザードランプなどで後続車に停止の合図をし、道路の左側に停車
- 2 安全に停車して、エンジンスイッチをLOCK、または、パワースイッチをOFFにする
- 3 119番へ通報
- 4 初期消火
(火勢の弱い初期段階に消火活動を行うのが効果的です)
- 5 初期消火にもかかわらず、火災が拡大した場合は、すみやかに安全な場所に避難

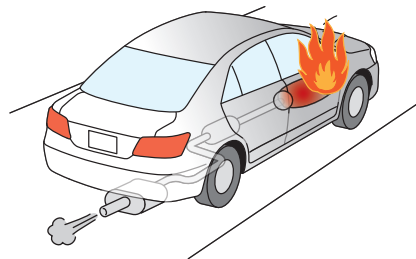
■詳しい内容については、取扱書およびメンテナンスノートをお読みください。

■装備品については車種により装備されていない場合もあります。

- エンジンの排気音が大きくなったときは、排気ガスが漏れているおそれがあり、排気漏れ部周辺から発火するおそれがあります。



- エンジンの振動が大きい、アクセルペダルを踏んでも車両が加速しないときは、燃料が正常に燃焼していないおそれがあり、未燃焼の燃料がエンジンから排出後、排気管内で燃焼し、排気管が過熱して火災につながるおそれがあります。

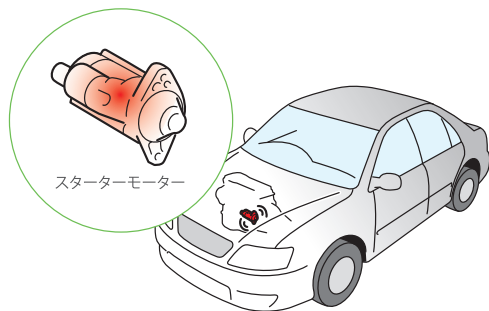


メンテナンス編

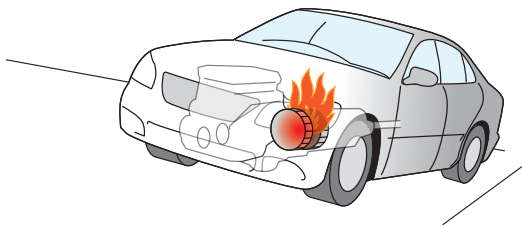
車両メンテナンスにあたって、お守りいただきたい注意点です。万一異常を発見されたときには、そのまま使用せず、すみやかに販売店へ連絡し、点検整備を受けてください。

車両に異常を感じたときは、そのまま使用せず、すみやかにトヨタ販売店などで点検整備を受けてください

- バッテリーを交換してもエンジンが始動しにくいときはイグニッションスイッチやスターターモーター、エンジン本体が故障しているおそれがあり、火災につながるおそれがあります。



- MT車で、アクセルペダルを踏んでも、エンジン回転は上昇するが車両が加速しないときは、クラッチが滑っているおそれがあり、クラッチが過熱して火災につながるおそれがあります。



取扱編

不慮の火災事故を防ぐために、おクルマを取り扱われる際に、お守りいただきたい注意点です。

- 室内にライターを放置しないでください P3
- 喫煙後はタバコの火を確実に消してください P4
- シガライターは元の位置に戻してください P4
- エンジンルーム内に燃えやすいものを置かないでください P5
- キャビンとデッキの隙間に物を置かないでください P5
- 用品は適切に取付けてください P6
- 不適切な改造は行わないでください P6
- 車内にガソリンなどの危険物を積まないでください P7
- スイッチ類に飲み物やスプレー等がかからないように注意してください P7
- 冠水路を無理に走行したり、エンジンルーム内の電気部品に水をかけないでください P8
- 枯草の上や草深い山道は走行や停車をなるべく避けてください P9
- 長期間車両を使用しなかったときは、エンジンルーム内を点検してから走行してください P9
- タイヤを空転、スリップさせながらの走行は避けてください P10
- レンズの働きをしそうなものを車内に置いたり取付けたりしないでください P11
- 車内で仮眠をとる際は、エンジンをとめてください P11

取扱編

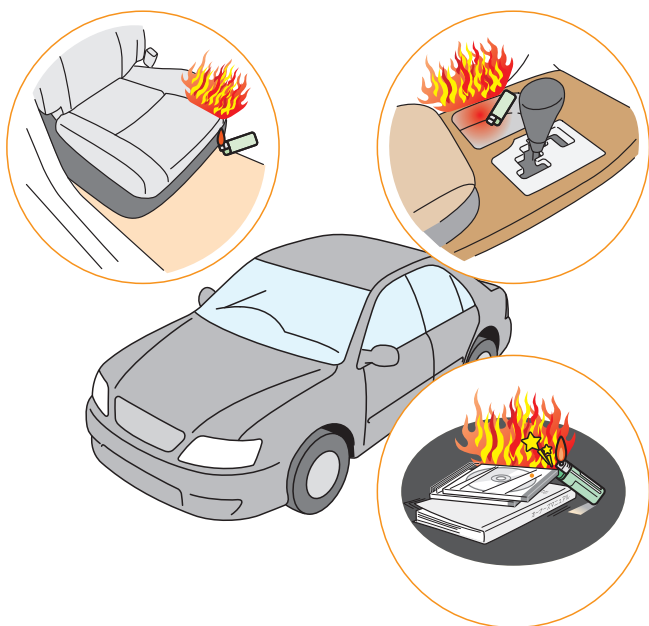
不慮の火災事故を防ぐために、おクルマを取り扱われる際に、お守りいただきたい注意点です。

ライターをフロアに落としたままにしないでください

- シートを動かした際、ライターの着火ボタンが押されて発火するおそれがあります。

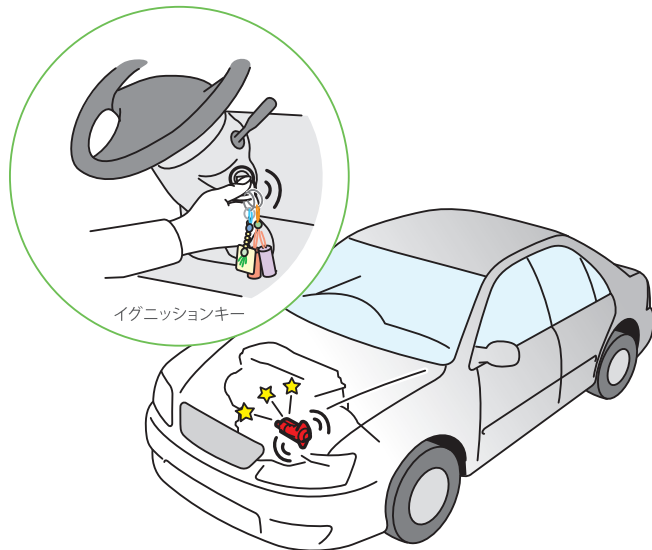
ライターをグローブボックスなどに入れないでください

- 小物入れ内部のものが動いた際、ライターの着火ボタンが押されて発火するおそれがあります。
- ライターを使用したあと、すぐに小物入れ等に入れると、残り火により発火するおそれがあります。



イグニッションキーの交換、取扱いにご注意ください

- イグニッションキーを純正品以外のものに交換すると、始動時、キーがSTART位置から戻らない場合があります。その場合スターターモーターが回りっ放しになり、スターターモーター内部が過熱して火災につながるおそれがあります。
- キーホルダーなど多数のアクセサリを取り付けるのも、キーが戻らない原因となることがあります。

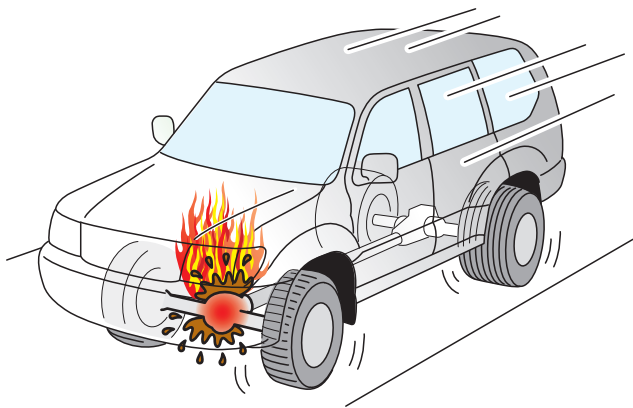


メンテナンス編

車両メンテナンスにあたって、お守りいただきたい注意点です。万一異常を発見されたときには、そのまま使用せず、すみやかに販売店へ連絡し、点検整備を受けてください。

4輪駆動車は前後輪のタイヤの状態に注意してください

- タイヤの摩耗状態や空気圧が極端に異なったり、タイヤサイズが異なると、ディファレンシャルなどの駆動装置に無理な負担がかかり、破損したりオイルが噴出して発火するおそれがあります。



【参考】タイヤサイズの見方



- サイズ表示例(ラジアルタイヤ)

265	/	65	R	17	112	S
タイヤ幅 (265mm)		扁平率 (65%)	ラジアル	リム径 (17インチ)	荷重指数	速度記号

喫煙時は灰皿を使用し、使用後は、マッチ、タバコの火を確実に消してください

- 灰皿を開けたまま放置したり、灰皿以外のものを使用すると火災になるおそれがあります。
- タバコの火種がカーペットなどに落ちて発火するおそれがあります。

シガライターを使用したあとは、元の位置に戻してください

- センターコンソールなどに放置すると、シガライターの熱で周囲の樹脂部品が発火するおそれがあります。

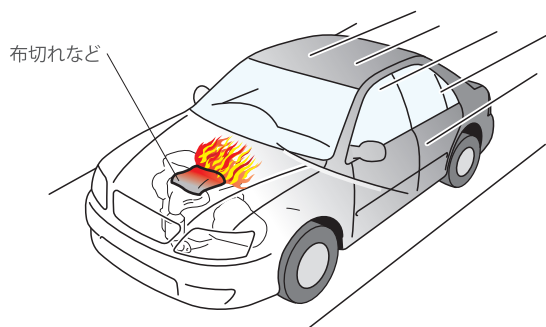


取扱編

不慮の火災事故を防ぐために、おクルマを取り扱われる際、お守りいただきたい注意点です。

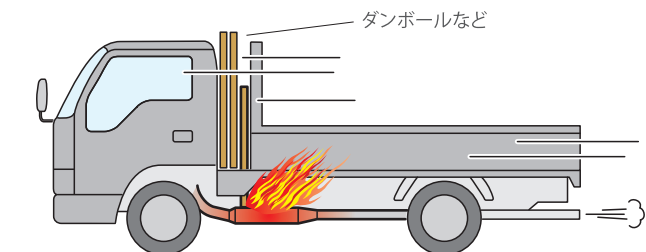
エンジンルーム内に燃えやすいものを置かず、工具台などに置いて作業してください

- 点検などで使用した布切れなど、燃えやすいものを置き忘れると、走行時、エキゾーストマニホールド、触媒、排気管などに触れて発火するおそれがあります。



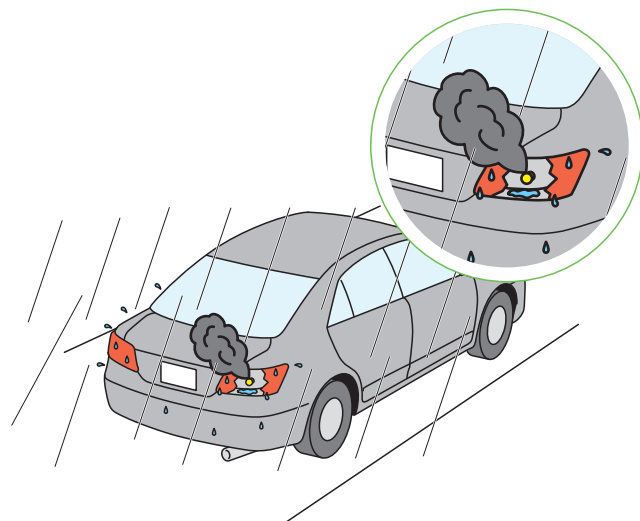
トラックのキャビンとデッキの隙間に物を置かないようにしてください

- トラックのキャビンとデッキの隙間に段ボールなどを置いていると、走行中落下し排気管に触れて発火するおそれがあります。



ランプ類が破損した際は、そのまま使用せず、トヨタ販売店などへ連絡し、点検整備を受けてください

- 事故などでランプ類が破損した状態で使用を続けると違法になるばかりか内部に水などが侵入してバルブ周りから発火するおそれがあります。



【参考】HID、ハロゲンランプのバルブ温度

点灯時、約500～600℃
(樹脂部品の発火温度:約400～500℃)

メンテナンス編

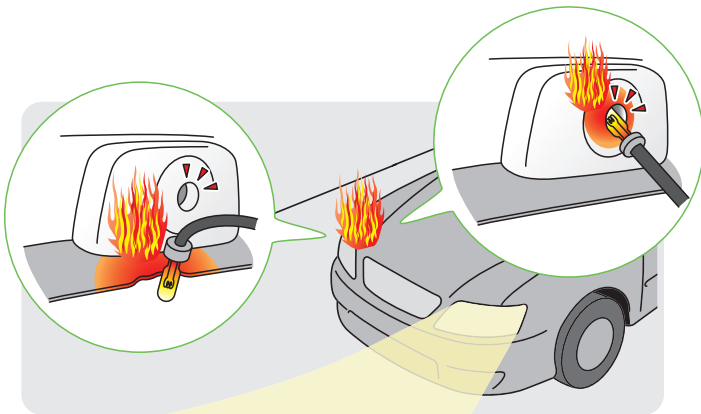
車両メンテナンスにあたって、お守りいただきたい注意点です。万一異常を発見されたときには、そのまま使用せず、すみやかに販売店へ連絡し、点検整備を受けてください。

ランプ類のバルブを交換する際は、取扱書に記載されている規格のバルブを取り付けてください

- バルブの容量(W数)が異なるものを使用すると、ランプユニット本体が異常過熱して、発火するおそれがあります。
- バルブ取り付け部の形状が異なるものを使用すると、走行中にバルブが外れ、点灯で高温になったバルブがバンパーなどの樹脂部品に接触して発火するおそれがあります。

バルブを取り付ける際は、斜め挿入などによるロック不良に注意して正しく取り付けてください

- 走行中にバルブが外れ、点灯で高温になったバルブがバンパーなどの樹脂部品に接触して発火するおそれがあります。



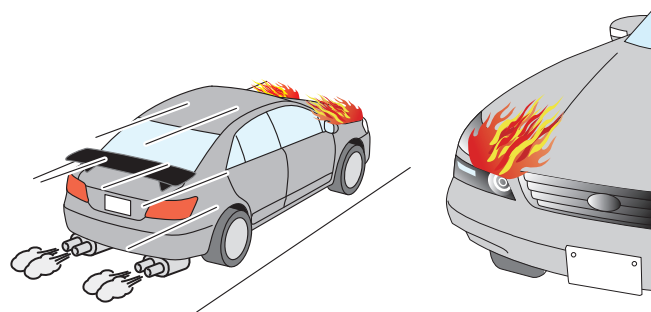
用品の取付けはトヨタ販売店やカー用品店に依頼することをお勧めします

- 電源の配線やアース線の接続などに不備があると、発煙したり、発火したりするおそれがあります。



不適切な改造は行わないでください

- 市販品のマフラー取り付けやエンジンの出力アップなどで、不適切な改造を施すと違法になるばかりか、思わぬ火災につながるおそれがあります。
- 市販品のヘッドライト(HID、イカリング等)の取付けなどで保安基準に適合しないケースがあるばかりか、思わぬ火災につながるおそれがあります。



取扱編

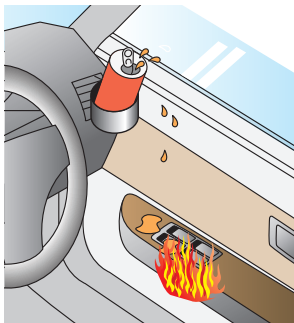
不慮の火災事故を防ぐために、おクルマを取り扱われる際に、お守りいただきたい注意点です。

車内にガソリンなどの危険物を積まないでください

- 燃料（ガソリンや灯油など）や、カセットボンベ、スプレー缶などを積んでいると火災につながるおそれがあります。万一、お店で購入した場合は、高温な車内に決して放置せず、できるだけ早く車外に降ろしてください。

スイッチ類に飲み物、スプレー等（潤滑剤・艶出し剤・クリーナ等）がかからないように注意してください

- インストルメントパネル、コンソールボックス、ドアなどにあるスイッチ類などに飲み物やスプレー等がかかると、故障の原因になったり、ショートして発火につながるおそれがあります。万一かかった場合は素早く拭き取り、きれいに拭き取れない場合は、必要に応じて販売店にご相談ください。



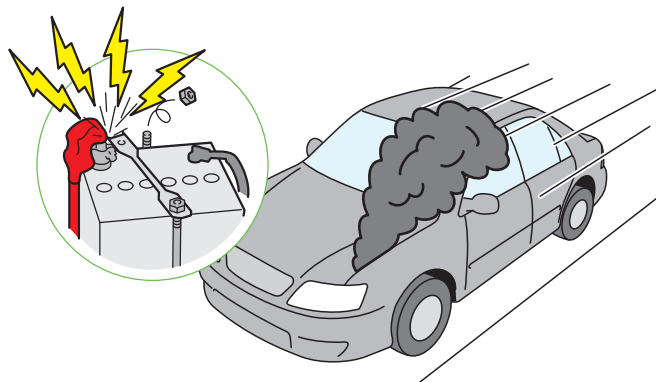
バッテリーは適切に取付けてください

■端子は確実に締め付けてください

- 締め付けが緩いと、ケーブルや端子が異常過熱して、火災につながるおそれがあります。

■バッテリーは車両に適合する形式のものを確実に固定してください

- 固定が不十分だと、バッテリー本体や固定金具が動いてバッテリー端子に接触し、スパークして火災につながるおそれがあります。



[参考] バッテリー形式の見方

●形式表示例

46	B	24	L
性能ランク (蓄電量)	サイズ (幅×箱高さ)	寸法の概数 (cm)	+端子の位置 (左)

メンテナンス編

車両メンテナンスにあたって、お守りいただきたい注意点です。万一異常を発見されたときには、そのまま使用せず、すみやかに販売店へ連絡し、点検整備を受けてください。

油脂類の点検は適切に行ってください

■エンジンオイルや冷却水量は定期的に点検してください

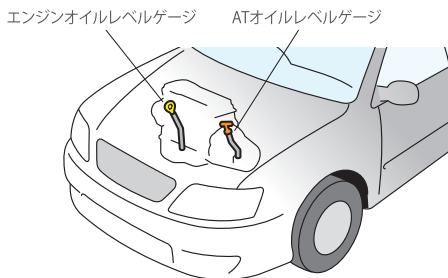
- エンジンオイルが不足するとエンジンが焼き付き、破損してオイルが噴き出し、排気管などに付着して発火するおそれがあります。
- エンジン冷却水が不足すると、オーバーヒートしてオイルや冷却水が漏れ、排気管などに付着して発火するおそれがあります。

[参考] 排気管温度

約500℃以上（走行条件などにより異なります）
（エンジンオイルの発火温度:約400℃）

■オイルレベルゲージは確実にレベルゲージガイドに挿入してください

- 挿入が不十分だとオイルが噴き出し、排気管などに付着して発火するおそれがあります。



冠水路を無理に走行したり、エンジンルーム内の電気部品に水をかけないでください

- エンジンに水が吸い込まれると、燃焼室に水が入り、エンジンが破損して、オイルが飛散し発火するおそれがあります。
- 電気系に水が入るとショートして発火するおそれがあります。
- 高圧洗車機を使うときは、エンジンを切り、ノズルの先端をフロントグリルに近付け過ぎないでください。エンジンルーム内に過度の水が入るおそれがあります。

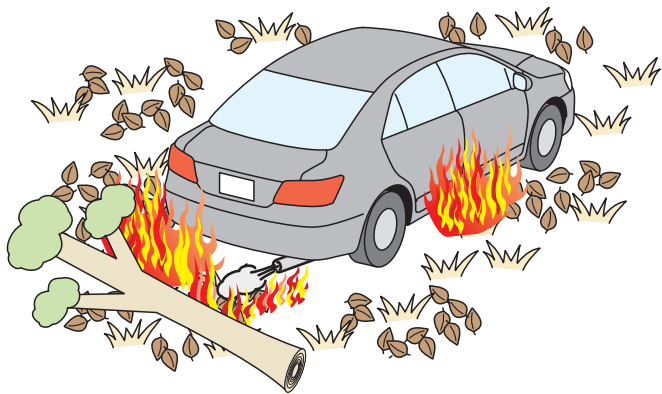


取扱編

不慮の火災事故を防ぐために、おクルマを取り扱われる際に、お守りいただきたい注意点です。

枯草の上や草深い山道は走行や停車をなるべく避けてください

- 枯草などがエンジンルームに入り込んだり、排気管などに触れて発火するおそれがあります。
- 停車した後方や排気管付近に燃えやすいものなどがあると、発火するおそれがあります。万一、走行や停車をする場合は十分注意してください。



長期間車両を使用しなかったときは、エンジンルーム内を点検してから走行してください

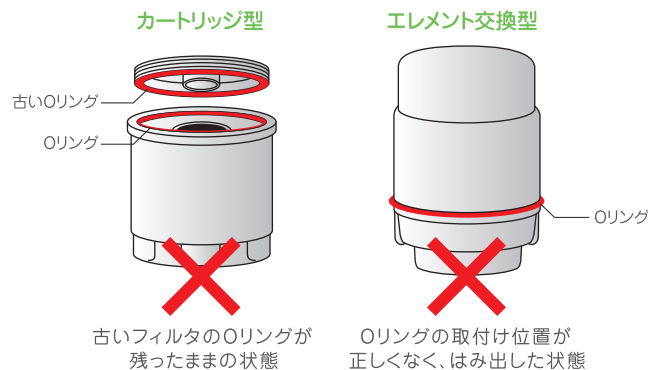
- 小鳥等の小動物がエンジンルーム内に枯草などを持ち込んでいた場合、そのまま使用すると、排気管などに触れて発火するおそれがあります。

■ オイルフィラキャップ、オイルパンドレンプラグは確実に締め付けてください

- 走行時脱落すると、オイルが噴き出します。

■ オイルフィルタの交換時はOリングを適切に取付けてください

- Oリングの取付けが不適切だと、シール性が確保されずオイルが漏れます。



■ オイル交換時にこぼしたオイルは必ず拭き取ってください

メンテナンス編

車両メンテナンスにあたって、お守りいただきたい注意点です。万一異常を発見されたときには、そのまま使用せず、すみやかに販売店へ連絡し、点検整備を受けてください。

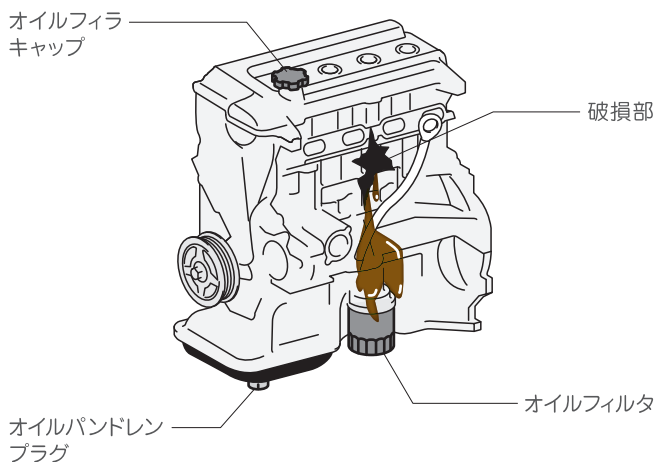
エンジンオイルおよびフィルタの交換は正しく行ってください

以下のような場合、エンジンオイルが漏れたり、噴き出して排気管などに付着し、発火するおそれがあります。

■エンジンオイルおよびフィルタは定められた交換時期に従い、早めに交換してください

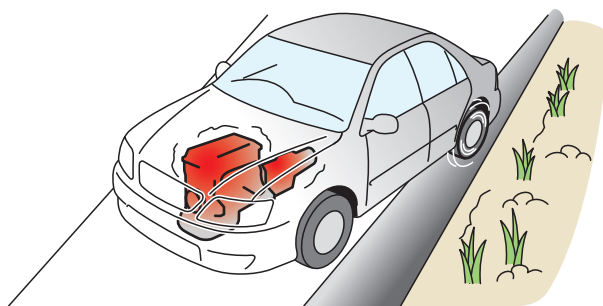
凹凸路面、登降坂路などの使用が多い場合はシビアコンディションの基準（通常の半分）で交換されることをお勧めします。

- オイルメンテナンスが悪いとエンジンが焼き付き、破損してオイルが噴き出します。
- エンジンオイル油圧警告灯の点灯は、エンジン内部の潤滑不良を表し、そのまま乗りつづけると、エンジンが焼き付き、破損してオイルが噴き出します。



タイヤを空転、スリップさせながらの走行は避けてください

- タイヤが空転する時は、一旦脱出を中断し、救援を呼ぶか、適切な脱出ツールを使って脱出を試みてください。
- 積雪時はスタッドレスタイヤやタイヤチェーンなどを装着して、タイヤがスリップしない状態で走行してください。
- ぬかるみ、砂地、側溝から脱出する際や、雪道の走行でタイヤがスリップ、空転する場合、駆動装置に無理な負担がかかり、オイルが噴き出して排気管などに付着し、発火するおそれがあります。

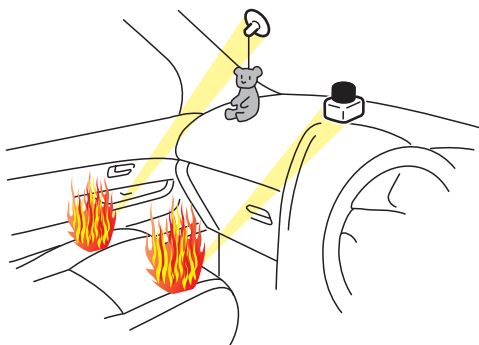


取扱編

不慮の火災事故を防ぐために、おクルマを取り扱われる際に、お守りいただきたい注意点です。

レンズの働きをしそうなものを車内に置いたり、取り付けたりしないでください

- ウィンドウガラスにアクセサリーの吸盤を取り付けたり、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置いたりすると、吸盤や容器がレンズの働きをして火災につながるおそれがあります。



車内で仮眠をとる際は、エンジンをとめてください

- エンジンをかけたまま仮眠すると、睡眠中に誤ってアクセルペダルを踏み込み、エンジンが高回転を続けて排気管やエンジン本体が異常に過熱し、火災につながるおそれがあります。

メンテナンス編

車両メンテナンスにあたって、お守りいただきたい注意点です。万一異常を発見されたときには、そのまま使用せず、すみやかに販売店へ連絡し、点検整備を受けてください。

- ご自身でオイル、タイヤ、バッテリー、バルブなどのメンテナンス（点検、補充、交換など）を行う場合は適切な工具を使って適切な手順で行い、異常が発生しないように十分注意してください。
- エンジンオイルおよびオイルフィルタの交換は ——— P13
正しく行ってください
- 油脂類の点検は適切に行ってください ——— P15
- バッテリーは適切に取り付けてください ——— P16
- ランプ類のバルブを交換する際は、取扱書に記載 ——— P17
されている規格のバルブを正しく取り付けてください
- ランプ類が破損した際は、そのまま使用しないで ——— P18
ください
- 4輪駆動車は前後輪のタイヤの状態に注意して ——— P19
ください
- イグニッションキーの交換、取扱いにご注意ください — P20
- 車両に異常を感じたときは、そのまま使用せず ——— P21
すみやかに点検整備を受けてください